



おちほ

第66号 平成22年3月5日発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 中嶋貴一郎

2010 落穂寮のお正月

安全第一

笑門来福

無病息災

家内安全



あけましておめでとうございます

みなさん、明けましておめでとうございます。今年も落穂寮をよろしく願います。まずは新年のご挨拶。さて、みなさんお正月は、どのような過ごされましたか？今回は落穂寮でのお正月の様子をお伝えしたいと思います。

まずは元旦。この日は特に何をするでもなく、みんなでのんびり。暖房の効いたポカポカの床暖の上でゴロゴロしたり、テレビの正月番組を楽しんだり、典型的な寝正月でした。いつもより、ゆったりとした時間の中で、利用者さんもリラックスされたようです。

そして二日には、やや重くなってしまった腰を「よっこらしょ」と持ち上げて初詣へ。今年は歩いて15分ほどの上葦保神社へお参りに。考えてみれば、去年は夏前にノロウイルス騒動、年末には新型インフルエンザと、落穂寮には散々な一年でした。今年は無病息災、健康な一年になるよう、利用者さん職員共々しっかりとお参りしてきました。

三日は、二日間ごちそうをしつかり食べてきたので、ゴロゴロも終了。歩行に出かけて、しっかりと体を動かしました。そんなこんなでお正月も終了。普段の生活が再び始まりました。今年も新しい一年の始まりを、利用者さんと共に感じることでできた三日間でした。

昇(す)ばる(る)うるはし

理事長 山下陽一

錯覚の劇場

今、映画館に掛かっているSFX映画(アバター「化身」)ですが、五百円程の追加料金を払うと立体映像を体験することが出来ます。最新のデジタル3D(スリーディー)技術を駆使して制作された映画です。スクリーン上でコンピュータ・グラフィックによる三次元空間を体験させてくれるこの映画のキヤッチコピーは「観るのではない。そこにいるのだ」となっています。しかもその映画が世界の興行成績を簡単に塗り変えたとか(わたしはまだ観たことはありませんが、聞くところによると結構疲れるらしい)。

立体空間を感じさせる原理は左目と右目にそれぞれ少しずれている映像を合わせて見せる工夫がしてあるということですが、この映画ではクラゲのようなものやフワフワ浮遊していたり、谷間に落下したりする仮想体験(視覚と聴覚の錯覚を操作しているのですが)できるそうです。ワープロのプリンターが三、四色のインキで鮮やかなカラー写真をたちどころにプリントアウトしてくれませんが、この映画も光のツブツブを人工的に加工する技術の成果といえるもので、今までに感じたことがないことを体感させてくれます。

はたしてこれはヒトに善いことなのか…

ひかりに打たれる

十五年前サブプリミナル効果について

話題になりました。この研究はアメリカでは古くからあるようですが、映画の中に脈絡のない無関係な映像を、知覚されないほどの一瞬だけ挿入するというもので、当時この操作によりコーラとポップコーンの売り上げに効果があったというものです。また、テレビアニメで反復した強い光を見ててんかん発作を起こしたということもあります。このように、無意識の世界にも、光の使いかたに極めて慎重を要することがセンサーションを巻き起こしたのです。

別の側面から見ると、光は外界から視覚を経由して脳に情報が入ってくる

とき、正しく意味づけられて意識の中に留まり、わたしたちは「認識する」ということになるわけですが、微弱な光はそれを感じ取る脳のセンサーが弱い場合はあまり意味がないことになってしまいます。

読売テレビの「天才!志村どうぶつ園」のなかで、チンパンジーの「パンくん」がヒトの発達年齢では三歳程度の様子演技しているのり大喝采していますが、「パンくん」は冬の夜空の「昇」がまたたいしているのをはたして知っているのでしょうか。その星の存在を知っているだけで星のさざやかな光を見ることが出来るのですが、案外これはヒトだけに見える光かも知れません。細微で微妙な光を感じる事ができるのは、感受性豊かなセンサーをもっているとお総合的に認識レベルまで達しないと掴めないことになっているのです。

「ひかり」を感じ分ける

夜の新宿歌舞伎町のネオンサイン、

蛍光灯、花火、ストロボなど人工の光を微妙に表現することは数多くあるのでしょうか。

宇宙から夜の日本を見ると地図の形に沿ってひかり輝いていることを宇宙飛行士の毛利さんが語っていましたが、地理的に日本全土が宇宙からも見えるほど人工の強烈な光に溢れているというのが現実のようです。水銀灯など少ないエネルギーで明るくしかも長く持ちのする光のため、企業間では開発するのに鎬(しのぎ)を削つているところとか。白熱球のフィラメントが輝く光と比較すると圧倒的に前者が輝いていると評価されています。

ところがその反面、一部のオーディオファンにはひと昔前の真空管のアンブが流行しています。デジタル技術を使って安く小さく簡単に作れるアンブを、発熱して光る真空管のアンブに付け替えて新たな趣向を満たしています。このアンブは音にぬくもりがあると(ただし、自作する以外は非常に高価なもの)。

ひかり模様

目を閉じてしまえば瞬時に見えなくなる光なのですが、自然に溢れている光をたくみに表現することは豊富にあり、さまざまに使分けられてきました。日本人の感性は微妙な光の違いを感じわけ表現する文化を築き上げてきたようです。

(光や色のみならず音や味わいなどにも言えるでしょう。)

物理的な自然の「光」とは別に宗教のなかでも「ひかり」は宗派を問わずさまざまな場面に登場します。五感で感じるものとは違う「ひかり」を「光え」といいます。例えば仏教には「光明」という言葉があり、キリスト教では「聖なる

みひかり」と賛美されますが、内容は共通していて、要するに、苦悩多いこの世の中を生きるうえに「道を誤らぬよう照らされる」という意味ではないかと思えます。この「ひかり」は心の奥深いところまで分け入っていきます。

近江学園において児童福祉事業をお始めになった糸賀先生は、その思想と実践の端的な表現として「この子らを世の光に」とされました。おそらくこれは、イエスの言葉にある「我は世の光なり」と弟子たちに「光となれ」が、このことはの動機になっていることは疑いないことです。

モノクロか「激燭(げきしょく)」か

ひかりを表現しているたくさんの中とはの中で、現代生活のわたしたちは今どれだけ繊細に感じ分けているでしょうか。

人口の九割が農民だったのは歴史的にみても古い時代ではありません。農耕のよりどころとしたのは月や星で、季節ごとの月の異名はたくさんありまして、今日で使うのは短歌・俳句を作るときぐらいでしょう。光の様子をあらわす「朧月」「有明月」などあり、「雨夜(うや)の月」などつじつまのあわないようにも思えますが、これは恋しさがつる思いに、その幽かなひと影を見るとき切ない恋歌に使われています。これらのことばはモノクロトーンの世界に満ちています。

はたして、現代に住むわたしたちにとって、人工的な強い光(激燭)により脳の一部を極度に興奮させる「快」がよいのか、見ている側の創造性が求められ、豊かな感性を融和させて初めて観える「温和な喜び」をとるのか…

(二〇一〇・二・三)

施設も地域の一員

寮長 中嶋 貴一郎

落穂寮には毎年多くの実習生や見学者が来訪されますが、初めて施設に来る人にとって落穂寮の印象は意外なものようです。実習生に「施設に対してどのようなイメージを持っていましたか」と聞くと、初めて施設を訪れる人のほとんどの人が、回りを扉に囲まれ、門があつて扉で閉ざされ、地域との交流も無く閉鎖的なところというマイナスのイメージを強く持つておられるようで、驚きを感じさせられますが、福祉を学ぶ学生にしてこのイメージです。すから、一般的にはもっと強く、施設に対しての閉鎖的なイメージをもつておられるのだらうと思います。最近の地域移行、在宅福祉が叫ばれ、脱施設化が唱えられる背景には、こういったイメージが一因している事も否めないと思っています。

来訪者の方が何故、意外と感じるのか、それは石部地域にある施設に共通している事ですが、扉もなければ門もなく、ましてや扉などまったく無く非常に開放的で出入り自由、施設に暮らす利用者の方々も、一人で行動できる人は自由に出入りしている、そんな雰囲気意外と感じるようです。私はよく来訪者の方に、石部地域の施設が何故このような開放的な雰囲気を作り出す事ができるのか話をする事がありますが、結論としては「施設は地域によって創られ、地域の人々によって育てられる」ということです。何故、施設に対して負のイメージが強いのでしょうか。施設がそれを望んだわけでも無ければ、そこに暮らす利用者の人々が望んだわけでもありません。社会が、それぞれの地域が障がいをもつた

人々を、皆さんが抱く負のイメージの状態に追い込んでいったという事だと思えます。地域福祉、在宅福祉が叫ばれ、障がい者理解が深まってきている現在でもなかなかそれに気づいていただける方は少ないですが、石部地域にある施設が開放的であるのは、それだけ石部地域の人々が施設の存在を受け止め、障がいをもちた人々に対する理解が深い証でもあると思えます。

四十年前、落穂寮が津から石部の地に移転してきた時は、決して今のような状況ではありませんでした。私たちは常によそ者でした。その時、私たちが思ったのは、「どうすれば石部地域の一員になれるのだろうか、何とか地域の一員になろう」でした。先ずは、私たちが地域の方と顔を合わせ挨拶をすることからのスタートでした。以来、その時々職員が、ある者は地域のクラブやサークルに参加し、ある者は地域に嫁いでいき、ある者は施設を出て地域のなかで事業を起こし地域の方々との関係を作ってきた事の積み重ねが今こ

にあるのだと思っています。様々な軋轢やトラブルもありました。「理解してください」と声高に叫ぶのではなく、施設に暮らす人々の日常を見ていただくことで、負のイメージを払拭してきました。

施設に暮らす人々は、生まれ育つた地での生活よりも施設で暮らして来た期間の方が長い方も多数おられます、その方たちにとっては、施設のある地が第二の故郷でもあり、生活の場としての地域でもあります。その意味で、施設やそこに暮らす人々は地域の中で特別な存在ではなく、それぞれの家、家族と同じように、地域の一員としての存在でありたいと願っています。

今、落穂寮が石部地域、東寺区の一員となれたのかと問われると、まだまだですと答えるしかないと思つています。今後、さらに地域の一員となつていくためには、私たちは施設という殻に閉じこもることなく、逆に施設のもつ機能と人的パワーをフルに發揮し、少しでも地域の方々の要望に応え支援していける力をつけたいと思わずにいられます。



11月～こうべをまんきつ



11月～ふたりでのんびり



2009

思い出のアルバム



9月～びわこをまんきつ



9月～うみをまんきつ



1月～いちごがりしたよ



11月～とうきょうまんきつ



10月～いせをまんきつ



8月～きょうだい、なかよし



今年も利用者さんと
リフレッシュ旅行へ
行ってきました。
楽しい思い出の
ページになった
のでしょうか？



9月～おんがくだいすき



10月～ながのをまんきつ

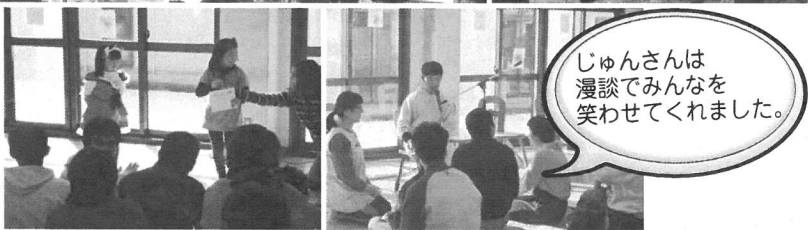


9月～どうぶつとあそんだよ





職員のご家族も
かけつけてくださいました。



じゅんさんは
漫談でみんなを
笑わせてくれました。



たかしさんは、
ハーモニカを
吹いてくれました。

クリスマス会？ それとも節分？



2009年クリスマス会は、新型インフルエンザ
の為、ラン子のみのお楽しみでした。そのため、
節分を盛大に行い、お楽しみ会という名目で利用者
さんに楽しんでいただきました。



2009X'masメニュー
シャンメリー
かぶサラダ
ミネストローネ
パン2種類
エビマカロニグラタン
貝柱タルタル和え
かしわもも焼き
(骨なし)

以前、牛ステーキを出
したこともあったのですが、
「鳥はないの？」の一言で幻の
メニューとなりました。
鳥モモ一番！



橋本栄養士

かぶサラダ
&タルタル和えは
大好評です。
マスタードを効かしたり
してX'mas 特別アレ
ンジにしました



今年の年男年女

男子棟

- ・近藤さん
- ・坂田さん
- ・矢部さん
- ・山岡さん

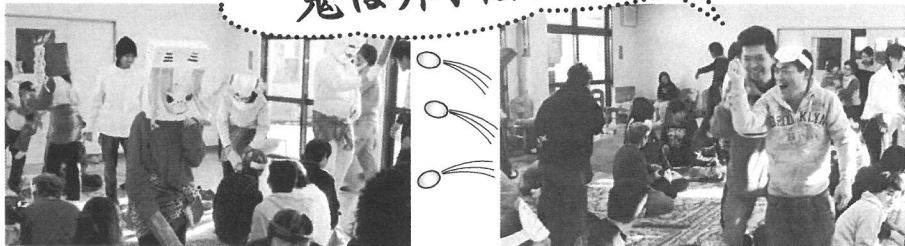


女子棟

- ・三沢さん
- ・松津さん



鬼は外、福は内



年末は大忙し

昨年末、日本列島を新型インフルエンザが蔓延いたしました。巷では多くの方が罹患され、病院へ行かれ、受診されていきました。例年とは状況が異なる環境でも毎年恒例のように待ち望む私たち



の元へ、今回もやってきてくださいました。そうです、われらがNECライティング労働組合、NEC SEIWA O T Tコンポーネッツ労働組合のみなさんです。ただし、今回は施設で新型インフルエンザが発症しているところは、蛍光灯の



受け渡したのです。が、幸いなことに当落穂察では全く発症者は出ておらず、例年通り蛍光灯の交換から照明器具の手入れまでしていただき、本当に助かりました。この援助があるのとな

いとは、職員の仕事量が大きく変わってくるのですから。ただ、今回は新型インフルエンザの感染に配慮して、作業終了後にくつろいでいただくこともして

いただけず、御礼の挨拶ぐらいしか出来なかつたことが残念です。本当に毎年、この紙面を通してお伝えしていますが、新しい年を明るく、温かく迎えられるのは、皆さんのおかげだと感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。



ついでのはなし

余談ではありますが、ここ落穂察は東寺の中でも高台にあり、地域の流行に疎いところがあるため巷で流行していた新型インフルエンザもここまではこないのだろうと思っていました。

また、職員の手洗い、うがいと食前の手指の消毒の徹底が功を奏して発症者が出ていないと自負していたのです。しかし、やはりそう甘くはありませんでした。

それも一番タイミングの悪いことに年末年始に発症者が続出したのです。十二月二十五日に向けて、毎晩のように夜遅くまで準備に取り組んでいた職員や利用者さんの努力もむなしく、クリスマスパーティーは流れてしまい、お正月どころではなくなっていました。

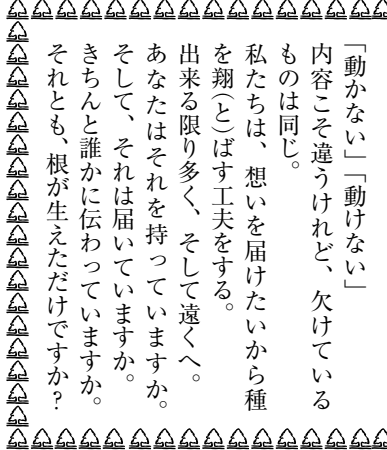
多くの方々にご迷惑をおかけすることとなってしまいました。ことまことに申し訳ありませんでした。今後は、さらに衛生管理を徹底し、職員も自身の健康管理に気をつけて支援に携わってまいります。

泉

▽「障害者自立支援法」が廃止されることになりました。新しい法律は「障がい者総合福祉法」という名前になるそうです。その内容がどの様なものになるのか全く不明であり、とても不安ではありますが、地域のニーズに少しでも応えられればとの思いで、新年度から新しいことを初めるつもりです。

新しいことを初めるのですから最初からうまくいくとは思えません。もちろん出来る限りの準備はするつもりですが、皆さんのより一層のご支援、ご協力をお願い致します。

木 こと 「動かない」「動けない」内容こそ違うけれど、欠けているものは同じ。私たちは、想いを届きたいから種を翔(と)ばす工夫をする。出来る限り多く、そして遠くへ。そして、それは届いていますか。きちんと誰かに伝わっていますか？ それとも、根が生えただけですか？



- ホームページがリニューアルしました。
- URL : <http://ochiho.noor.jp>
- ochiho.noor.jp と入れていただいで、検索していただくだけでもご覧になれます。活動報告もブログで見ることが出来ます。ぜひ、一度ご訪問ください。増田元理事長が作成されたホームページにも飛んでいただく事が出来ます。皆様のご意見をお待ち致しております。